

テーマ 自分の価値の再発見

■前職の肩書……………

これは数年前に取引のあった再就職支援会社のAさんの話です。Aさんは大手企業の早期退職者向けに再就職支援の仕事をしていました。

ある日、Aさんから「会社見学をさせて欲しい」と連絡がありました。なんでも再就職活動をしているBさんにアドバイスをしたいとのこと。私もどんな方が再就職活動をしているのか興味があったため、喜んでお受けすることにしました。

当日、Aさんと一緒にお見えになったBさんは、50代前半の元大手企業の管理職で、バリバリ仕事ができそうな方でした。私一人の零細企業と知って、急に態度が横柄になったのには驚きました。

さてどんな話をすればいいか迷っていると、Bさんは「本当は会社を辞めたくなかったが、所属していた部署がなくなり退職することになった」と切り出し、それから20分くらい会社の悪口ばかり聞かされました。Aさんが、なぜBさんを私のところに連れてきたのかなんとなく分かりました。

Bさんの愚痴を丁寧にヒアリングした後で、私が話したことは次の通りです。

「脱サラして独立すると、会社員時代の給料分を稼ぐのが非常に難しいことに初めて気付きます。会社から毎月決まった日に給料を頂けるのは、本当に幸せなことです。会社の悪口は、独立して自分の給料分を稼ぐまでは言わない方がいいと思います」

「給料」のキーワードにBさんは敏感に反応し、「仕事の割には給料が安かった」とまた会社の悪口が始まり、まるでサンドウィッチマンの漫才を見ているようで吹き出しそうになりました。

身の回りで実際に起こることには、必ず何らかの深い意味があります。そう思って対処しないと、せっかくの学びの機会を失ってしまいます。これまでの奇跡のような幸せを、自分は受けて当然だと思ってしまうところから人生の転落は始まります。

仮にBさんは再就職に成功しても、今の考え方を変えない限り、また就職活動をする羽目になるでしょう。何を言ってもやさぐれてばかりいるBさんに、私が経営者の立場でアドバイスをしたことは次の通りです。

「40歳を過ぎれば、仕事はできて当然です。では何で差がつくかといえば、誰もが協力しなくなるような人間性を持っているかどうかです。不満ばかり言っている人には、誰も協力しようとは思いません。再就職に成功するためには不満を言わないことが必要だと思います」

年上のBさんに対してすこし言い過ぎたかなと反省しましたが、静かに考えていたBさんが私に相談されたことは次の通りです。

「再就職先がなかなか決まらない。何かいい方法はないだろうか？」

何をやってもうまくいかない時、流れを変える一つの方法は「自分の足元を注意深く見直すこと」です。私がBさんにアドバイスをしたことは次の通りです。

「前職の肩書を有効活用しませんか？Bさんの会社は誰でも知っていますので、まだ実績のないベンチャー企業の顧問になって、信用担保の役割を果たしてはいかがですか？」

ベンチャー企業はキラリと光る特徴があっても、信用がないとなかなか大手企業に相手にされません。「元大手企業の管理職」の肩書は、販路開拓に活かすことができます。

創業期は、まさになりふり構わず仕事に邁進する時です。リスクを背負って必死に取り組む経営者と一緒に行動すれば、Bさんのやさぐれた考え方も変わるはずですよ。自分の価値を再発見する一つの方法は、スタートアップの会社に注目することです。

以上

